春夜洛城に笛を聞く

李白

誰が家の玉笛か暗に声を飛ばす
散じて春風に入って洛城に満つ
此の夜曲中折柳を聞く
何人か故園の情を起さざらん

【作者】李　白（七〇一～七六二年）・盛唐の詩人、杜甫と並び称される。蜀の錦州彰明県青蓮郷の人で青蓮居士と号した。幼にして俊才、剣術を習い任侠の徒と交わる。長じて中国各地を遍歴し、四十二歳より四十四歳まで玄宗皇帝の側近にあり、後再び各地を転転とし多くの詩をのこす。安禄山の乱に遭遇して、罪を得たがのち赦される。六十二歳、病のために没す。

【語釈】＊暗…どこからともなく。　＊洛城…洛陽城。東都洛陽の都。　＊折　柳…折楊柳の曲　この曲は漢代以来の古楽府で、別離の情をうたう当時旅立つ人に　柳の枝を折って贈るという風習があった。したがって折楊柳とは別れの曲である。　＊故園…故郷。　＊情…想い。

【通釈】誰の家で吹く玉笛であろうか、どこからともなく笛の音が聞こえてくる。それは折からの春風にのって、洛陽の街いっぱいに満ち渡るようである。こんな夜、曲の中に折楊柳の曲があったが、この曲を聞けば、だれが故郷を恋い慕う思いを起さずにいられようか。